

平成 22 年 4 月 12 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19730328

研究課題名 (和文) 日本の生産システムの再編期における小集団活動の研究

研究課題名 (英文) Small Group Activities in the Transition of the Japanese Production System

研究代表者

小川 慎一 (OGAWA SHINICHI)

横浜国立大学・国際社会科学研究科・准教授

研究者番号：30334618

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：小集団活動、日本の生産システム、QC サークル、日本の雇用慣行

1. 研究計画の概要

本研究は日本企業の小集団活動の現状を調査することを目的としている。小集団活動は日本の製造現場を中心に、現在も活発に展開されている。具体的には以下のことがらを明らかにしたい。

- (1) 現在活発に小集団活動を展開している企業は、どのような特徴をもち、それにどのような効果を期待しているのだろうか。
- (2) 1990 年代以前の活動の特徴とどのような異同があるのだろうか。
- (3) 技能者を対象とした能力開発体系において、小集団活動はどのように位置づけられているのだろうか。
- (4) 製造現場の技術革新の進展や雇用形態の多様化のなかで、小集団活動はどのような影響を受けているのだろうか。
- (5) 小集団活動に関与する労働者は、その活動に対してどのような意識をもっているのだろうか。
- (6) いわゆる「2007 年問題」にともなう技能伝承において、小集団活動はどのように活用されているのだろうか。

2. 研究の進捗状況

本研究では聞き取り調査によって、つぎの対象をそれぞれ調査した。

(1) 小集団活動の普及団体本部と地域支部

小集団活動やそれに類する活動はいくつかの母体や形態で実施されている。本研究では日本の小集団活動を著名にした、1960 年代以来の流れをくむ団体の本部と地域支部を調査した。その結果、以下のことが明らかになった。

- ① 小集団活動は 1980 年代に最盛期を迎え

たが、90 年代以降は停滞期に入った。

- ② 小集団活動の停滞の大きな要因として、景気低迷やそれにとまなうほかの経営手法の導入が挙げられる。
 - ③ 2000 年代前半の景気回復や品質管理に関連する企業不祥事により、ふたたび小集団活動が注目された。
 - ④ 地域支部の活動は、企業の自主的な活動である。活動の縮小とともに運営方法の見直しがなされるなど、時代に適応した活動形態が模索されている。
 - ⑤ 停滞とはいっても、自動車関連産業では小集団活動が活発に展開されている。また福祉産業といった非製造業により、活動が新規に採用されつつある。
- (2) 小集団活動を実施する企業
- (1) で調査した地域支部の会員である企業 (自動車産業) 2 社に実施状況と近年の変化について聞き取り調査をおこなった。また、(1) で調査した地域支部のリーダーを担当する企業にも、地域支部調査のうちに企業での実施状況を尋ねている (3 社)。その結果、以下のことが明らかになった。
 - ① 現在小集団活動を実施している企業であっても、1990 年代に小集団活動がマンネリ化した例がある。
 - ② 2000 年代に入って、小集団活動に財務的な改善成果を求める動きが強まっている。
 - ③ 2000 年代に入ってからの、人材派遣の原則自由化にとまなない、製造現場に派遣労働者が増加した時期がある。その時期には派遣労働者も小集団活動に巻き込む動きが見られた。
 - ④ 小集団活動を継続的に実施している企

業は、活動方法の見直しを図っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

小集団活動の普及団体本部や地域支部から調査を開始したため、地域支部を通じて参加企業の担当者を複数紹介してもらった。

「1. 研究活動の概要」の(6)「2007年問題」は、小集団活動にほとんど影響していないようである。

調査結果を大学の紀要などにまとめる時間がないことや、調査企業数がまだ不十分なこと、小集団活動を止めた企業への調査がおこなわれていないことなど、今後課題を残している。

4. 今後の研究の推進方策

(1)国際学会大会での研究成果報告

2010年7月に開催される国際社会学会第17回大会で報告予定である。

(2)大学紀要への執筆

2010年度中に、品質管理普及団体本部や支部の活動状況について、執筆を計画している。

(3)企業調査の継続

自動車産業への調査は時節柄難しい側面もあるが、さらに同産業の何社かに聞き取りをおこなう。かつて小集団活動が盛んだった電機・エレクトロニクス産業の実施企業や、かつて実施していた企業の何社かにも調査をおこなう計画である。

(4)研究成果のとりまとめ

当初は調査報告書を編集する予定だったが、大学紀要への執筆など、より柔軟かつ手間のかからない成果公開の方法を模索したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 小川慎一、もうひとつの企業社会論——小集団活動とその周辺、日本労働社会学会年報、20、3-27、2009、査読なし
- ② 小川慎一、QCサークルは社会科学でどう論じられてきたか——産業・労働社会学の視点から、品質、39(2)、42-47、2009、査読なし
- ③ 小川慎一、わかりやすい知識を伝達するには——日本で小集団活動が普及するまで、クォーターリー生活福祉研究、16(3)、16-31、2007、査読なし

[学会発表] (計3件)

- ① 小川慎一、2000年代の小集団活動、日本労働社会学会第21回大会、2009/11/21、佛教大学(京都)
- ② 小川慎一、もうひとつの企業社会論——

小集団活動とその周辺、日本労働社会学会第20回大会、2008/10/26、専修大学(東京)

- ③ OGAWA, Shinichi, Integration or Separation of Conception and Execution?: Japanese Quality Circles as Problem-solving Activities, ISA 1st Forum of Sociology, 7/9/2008, Edifici Rambla de la Universitat Pompeu Fabra, Barcelona